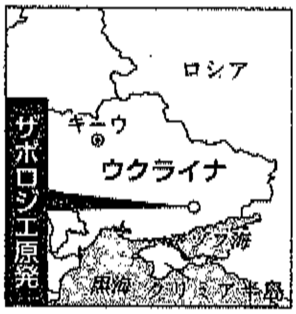
4/9 赤旗

ザポロジエ原発に攻撃

ウクライナ南部 IAEA警告

国際原子力機関（IAEA）は7日、ロシア軍が占拠しているウクライナ南部ザポロジエ原発がドローン攻撃を受け、被害があったと明らかにしました。IAEAは「核の重大事故が起こる危険性が高まっている」と警告しました。



グロッシ事務局長は「原子力の安全を危険にさらす行動を慎むよう強く求める」とする声明を発表。原発事故のリスクを高める「無謀な攻撃」だと強く非難しました。「直ちにやめなければならない」と訴えました。

攻撃を行った主体は不明。ロイター通信によると、ロシア国営原子力企業ロスアトムはこれより先、ウクライナ軍がザポロジエ原発を攻撃したと主張しました。ウクライナ側は攻撃への関与を否定しています。

IAEAのX（旧ツイッター）への投稿によれば、攻撃があったのは7日で、6基の原子炉のうち1基を格納する建物で被害が発生しました。グロッシ氏は、建物が少なくとも3回の直撃を受けたと説明。ロシア当局は3人が負傷したとしていますが、IAEAは1人が負傷したと報告しています。

IAEAは「原子力施設への攻撃で軍事的・政治的な利益を得る者はいない」と強調した上で、ロシア、ウクライナ双方の「軍事（作戦の）決定者」に自制を促しました。

カホフカ・ダムにつながる貯水池から見たザポロジエ原発＝2023年6月（ロイター）

ザポロジエ原発は6基の原発があり欧州最大規模。ロシア軍が2022年侵攻直後の3月に占拠しました。同年夏以降、原発や周辺で砲撃が激化しました。同年9月からはIAEA職員が常駐しています。